

2022 年度（令和 4 年度）

事業報告及び決算書

自 2022 年（令和 4 年）4 月 1 日

至 2023 年（令和 5 年）3 月 31 日

東京都中央区日本橋小網町 3 番 11 号

一般財団法人日本醤油技術センター

目次

I	概要	
	1. 一般	1
	2. 重点活動	2
II	会議等	
	1. 理事会	5
	2. 評議員会	5
	3. その他	6
III	事業報告	
	1. 検定事業	7
	2. 調査・研究事業	10
	3. 検査事業	12
	4. 指導・育成事業	12
	5. 技術指導	13
	6. 表示指導	14
	7. 委員会等への参画	15
	8. マネジメント・レビューの状況と結果	16
	9. 独立行政法人農林水産消費安全技術センターによる調査の状況及び結果	16
	別表	18
	附属明細書	31
IV	計算書類	
	貸借対照表	32
	正味財産増減計算書	33
	財務諸表に対する注記	35
	附属明細書	36
	正味財産増減計算書（予算実績）	37
V	監査報告書	39
VI	役員等名簿	40

I 概要

1. 一般

我が国の経済は、昨年3月に新型コロナウイルスまん延防止等重点措置が全て解除されて以降、ウィズコロナの下で緩やかに持ち直し、多くの需要項目でコロナ禍前水準を回復するとともに、全国旅行支援の開始や入国制限の緩和を背景としたサービス消費およびインバウンド消費の回復を主因に小幅ながら景気回復基調は維持された一方で、ロシアのウクライナ侵略等による原材料価格の上昇や円安による輸入物価の上昇は国内物価を上昇させ、家計・企業の活動に影響を与えた1年でありました。

醤油業界においても、コロナ禍の影響によりしょうゆの出荷量の減少幅が大幅に拡大した2020年度以降低迷が続き、加えて原材料価格やエネルギー価格の高騰など企業経営にとって非常に厳しい1年となりました。

このような中、輸出は平成25年に「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを契機に、海外での和食ブームによる需要拡大等により数量で115.9%増、金額で119.9%増(平成25年比)と好調で、業界団体としても「品目団体輸出力強化緊急支援事業補助金」の採択を受け、参加事業者を募り海外2回、国内2回の展示会に出展するなど輸出支援に取り組んでまいりました。

一方、しょうゆ加工品を含め、消費者ニーズに応えた高付加価値化、簡便化、小容量化への流れは引き続き堅調であり、業界団体としてもしょうゆ加工品類の出荷情報の充実化を図ってまいりました。

こうした中で、当センターも新型コロナウイルスの影響を受けつつも、積極的にWebなどを活用することにより、業務を遂行してまいりました。

重点活動においては、(1)技術サービス・支援の充実、拡大として、①HACCP対応や書類の電子化を含む既存業務の適正な遂行、②しょうゆ製造における「こだわり」に対する支援策の検討、③海外戦略を意識した日本醤油の製法を適切にアピール出来る製法及び特徴の明確化の検討、④全国醤油品評会、研究発表会、技術雑誌等のプログラム、内容の継続的なブラッシュアップと活性化、⑤しょうゆ官能評価法及び運用の検討、⑥新規のWeb講習会、⑦標準色の販路拡大、(2)コミュニケーション・情報発信力として、①関係省庁(農林水産省、消費者庁、厚生労働省、文部科学省等)とのコミュニケーションの強化、②ホームページの内容充実とタイムリーな情報発信、③指導審査員、エリア審査員、表示指導員体制の見直しと機能強化、表示指導員等のネットワークの保守・継続、(3)生産性向上として、①理事会・評議員会、各種委員会など、原則、会議のオンライン併用ハイブリッド化、②既存の講習、研修及び新規セミナーに関し積極的なWeb活用による収益の強化、③審査等に関連する報告及び書類の保管についての電子化、効率化、④書類の電子化に合わせて属人的業務の共有化を行いました。

また、これら重点活動とともに、認証業務を中心とした従来の業務についても実施してまいりました。

令和4年度の活動は以下のとおりです。

2. 重点活動

(1) 技術サービス・支援の充実、拡大

ア JAS 認証・検査業務の適正な遂行

(ア) HACCP 対応や書類の電子化を含む既存業務の適正な遂行

- ・ HACCP 制度化に対応するため、審査員を通じて情報提供を行うとともに、必要に応じて関係当局との調整を行いました。
- ・ 電子化については、審査結果の判定から報告までの手続きの自動化、新たなホームページを活用した情報公開、研修等の申し込み手続きの簡素化を図りました。

イ しょうゆの価値向上につながる施策

(ア) しょうゆ製造における「こだわり」に対する支援策の検討

- ・ 全国の小規模工場減少に対する歯止め策の一つとして、木桶での取り組みを参考に、自然温熟成、地産地消をキーワードに賛同者を募るなど「プラットフォーム」作りを提案し、その意欲や市場及び品質などを勘案し、展開方法など事業者ヒアリングし検討を進めました。

(イ) 海外戦略を意識した日本醤油の製法を適切にアピール出来る製法及び特徴の明確化の検討

- ・ 輸出や海外展開に際し、日本醤油の独自性や品質の優位性をアピールするために、日本醤油の製造法を明確にすることにより、製法を規格とした新 JAS 等の利用ができないか検討を進めました。

(ウ) 全国醤油品評会、研究発表会、技術雑誌等のプログラム、内容の継続的なブラッシュアップと活性化

- ・ 全国醤油品評会においては、新型コロナ対策として一次審査は各ブロックで行い、二次審査および最終審査は醤油会館で行いました。
- ・ 研究発表会においては、東京農業大学で 3 年ぶりに実地開催しました。また、そのビデオ録画を後日オンラインで配信し、合わせて 123 名の参加がありました。
- ・ 技術雑誌「醤油の研究と技術」においては、第 48 巻第 2 号（5 月 25 日発行）から、表紙デザインを一新するとともに、より読みやすい誌面づくりを目指して、表紙の写真に連動した“旅する醤油コンプラ瓶”の特集企画を開始しました。また、ホームページのリニューアルに併せて、定期購読の申込をホームページからできるように改良して、利便性を高めました。

(エ) しょうゆ官能評価法及び運用の検討

- ・ しょうゆの官能評価を表現する用語は、地域、時代、食文化、性別、年齢など一人一人違うことから、しょうゆのフレーバー・ホイールを基本に用語を共通化し、日本と海外の醤油の違いを説明できるよう JAS 規格に規定することを検討しました。

ウ 新たな事業収入の創出

(ア) 新規の Web 講習会（技術研修、表示研修他）

- ・ 表示研修については、原料原産地表示、遺伝子組換え表示、添加物の不使用表示などについて、最新情報を交えた講習会を、オンデマンド方式で7月25日～8月5日に開催し、41名の参加がありました。
- ・ 技術研修については、新任者から熟練者、営業までを対象とした、しょうゆ製造の基本技術についての講習会を、オンデマンド方式で12月20日～1月20日に開催し、33名の参加がありました。

(イ) 標準色の販路拡大

- ・ ホームページのリニューアルに併せて、標準色について分かりやすい説明を載せました。

(2) コミュニケーション・情報発信力

ア 食品産業センター、全味工連、JETRO 等と連携しながら、関係省庁（農林水産省、消費者庁、厚生労働省、文部科学省等）とのコミュニケーションの強化

- ・ 農林水産省消費・安全局食品安全政策課からの要請により、食品の安全性向上のためのリスク管理に基づく実態調査について、そのフォローアップのための情報収集などに協力しました。
- ・ 消費者庁を訪問し、新たな遺伝子組換え表示制度で「遺伝子組換えでない」と表示する場合の必要事項について確認しました。また、添加物の不使用表示に関する問い合わせが多いことから、12月6日に醤油会館において、消費者庁による説明及び質疑応答の場を設けました。
- ・ 厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課からの要請により、食品衛生法改正に伴う営業許可・営業届出制度の変更について周知しました。

イ ホームページの内容充実とタイムリーな情報発信

- ・ 事業者への情報に特化して、ホームページの大幅なリニューアルを行いました。
(新しい URL : <https://www.shoyu.or.jp/>)
- ・ 同時に、行政などでも使用されている LINE 公式アカウントの運用を開始し、事業者の手にタイムリーに情報が届くようスピード感のある情報発信に力を入れました。

ウ 指導審査員、エリア審査員、表示指導員体制の見直しと機能強化、表示指導員等のネットワークの保守・継続

- ・ 審査員から提出された審査結果報告書や、認証工場から提出された変更届などを全て電子化し、各エリア審査員も閲覧できるようにしました。
- ・ 指導審査員との連携を強化するため、指導審査員研修を Web で実施することにより開催頻度を増やし、きめ細かな情報交換を行いました。

(3) 生産性の向上

ア 理事会・評議員会、各種委員会など、原則、会議をオンライン併用のハイブリッド方式とする

- ・ 全ての理事会・評議員会は、醤油会館をホスト会場としたオンライン併用のハイブリッド方式で開催しました。
- ・ 日本醤油技術賞選考委員会、雑誌編集委員会及び安全・安心（技術）委員会については、醤油会館をホスト会場としたオンライン併用のハイブリッド方式で開催し、資料はすべて事前に配布し、選考の投票などもオンライン併用にて行いました。

イ 既存の講習、研修及び新規セミナーに関し積極的な Web 活用による収益の強化

- ・ 既存の講習会及び研修会を新任者と継続者に分け、内容もそれぞれに必要なものに見直しました。
- ・ 継続者向け講習・研修にあっては、Web を活用し参加者の利便性に配慮して実施するとともに、申込手続きをホームページからの入力に改め、事務手続きの効率化に努めました。

ウ 審査等に関連する報告及び書類の保管についての電子化、効率化

- ・ 審査員から提出された審査結果報告書や、認証工場から提出された変更届などは全て電子化し、各エリア審査員も閲覧できるようにしました。

エ 書類の電子化に合わせて属人的業務の共有化

- ・ 書類を電子化することにより、重要書類の保管や必要書類の共有化を図り、属人的業務の解消を進めました。

Ⅱ 会 議 等

1. 理事会

回	開催年月日	開催場所	主な議事内容
1	理事会 Web 併用会議 令和 4 年 5 月 26 日	醤油会館 2 階会議 室	<決議事項> 第 1 号議案 令和 3 年度事業報告及び計算書類等 の承認について 第 2 号議案 定時評議員会について ①事業報告及び計算書類の承認 ②理事の選任について ③定款の変更について
2	理事会 Web 併用会議 令和 4 年 11 月 17 日	醤油会館 2 階会議 室	<決議事項> 第 1 号議案 役職員給与規程の改定について 第 2 号議案 臨時評議員会の招集及び提案議題に ついて ①評議員の選任について ②役職員給与規程の改定について <報告事項> (1) 業務執行理事の職務執行状況の報告について
3	理事会 令和 5 年 3 月 16 日	醤油会館 2 階会議 室	<決議事項> 第 1 号議案 旅費規程の改定について 第 2 号議案 令和 5 年度事業計画及び予算の承認 について

2. 評議員会

回	開催年月日	開催場所	主な議事内容
1	評議員懇談会 Web 併用会議 令和 4 年 5 月 26 日	醤油会館 2 階会議 室	<報告事項> (1) 令和 3 年度事業報告及び計算書類等の承認につ いて (2) 定時評議員会について ①事業報告及び計算書類の承認 ②理事の選任について ③定款の変更について
2	評議員会 みなし決議 決議日 令和 4 年 6 月 15 日	—	<決議事項> 第 1 号議案 事業報告及び計算書類の承認 第 2 号議案 理事の選任について 第 3 号議案 定款の変更について
3	臨時評議員会 Web 併用会議 令和 5 年 3 月 16 日	醤油会館 2 階会議 室	<決議事項> (1) 評議員の選任について (2) 役職員給与規程の改定について

3. その他

本部団体連絡協議会

回数	開催年月	開催場所	主な議事内容
毎月 1回	令和4年4月～ 令和5年3月	醤油会館	(1)醬協ニュースについて (2)団体別報告事項について

Ⅲ 事業報告

1. 検定事業

(1) 認証事業

ア 審査員の委嘱

審査員を別表1のとおり委嘱しました。

イ 認証の申請に係る審査及び確認調査の実施

日本農林規格等に関する法律第19条2項の規定に基づく業務を実施しました。結果は次の通りです。

(ア) 認証工場数の増減（農林水産省届出件数）

令和4年度の増減は、下表の通り。詳細は別表2～3の通りです。

令和4年4月1日 認証工場数	新規認証	廃止	取消	令和5年3月31日 認証工場数
467件	3件	18件	0件	452件

(イ) 認証の申請に係る審査

日本農林規格等に関する法律施行規則第46条第1項1号の基準に基づく業務を実施しました。結果は次の通りです。

申請受理件数	審査数	判定結果	
3件	3件	合3件	否0件

(ウ) 認証後の定期確認調査

日本農林規格等に関する法律施行規則第46条第1項2号の基準に基づく業務を実施しました。

令和4年4月1日 調査予定工場数	中止 (廃止及び廃止 予定等)	被災による 休止	次年度	令和5年3月31日 完了数
452件	1件	2件	27件	422件

ウ 審査員の適正な業務の推進

JAS 関連法規や公正な審査の方法及び知識について、審査員としてのレベルの向上・平準化、認識強化及び情報の共有化を図るため、下記研修を実施しました。

(ア) ブロック別審査員研修会

ブロック研修を下表のとおり実施しました。詳細は別表4の通りです。

名称及び開催時期	目的	概要
春季審査員及び表示 指導員合同研修会 令和4年6月6日～ 7月20日	本年度の審査及び指導 方針と実施方法につい て具体的に説明し、最 終確認を行う	1.審査体制について 2.スケジュール 3.2022年度 調査実施要領による重点 事項の説明と共有 4.2022年度チェックリストの説明と質 疑応答
秋季審査員研修会 令和4年12月～	進捗状況の把握及び問 題点の抽出並びに地区 別審査員研修の課題の 抽出と共有	1.2022年度JAS審査について 2.FAMIC等からの指導事例から 3.地区別JAS審査の課題について 4.最近の話題 5.組合での表示指導の概況について

(イ) 指導審査員研修会

審査員の審査技量の向上と課題に基づく、審査実施方針や研修の企画等の検討を行うため、指導審査員研修会を下記の通り実施しました。

日時	目的	概要
令和4年4月27日 13:00～16:00 (Web)	本年度の審査及び指導 方針と実施方法につい て具体的に説明し、確 認を行い、地区別の審 査員への研修課題の抽 出と共有	1.今年度の年間計画(案)について 2.今年度の調査実施要領について 3.今年度のチェックリストについて 4.リモート調査の実施について
令和4年10月25日 13:00～15:00 (Web)	2022年度進捗状況の 把握及び問題点の抽出 と地区別審査員研修の 課題	1.前年度調査の結果及び問題点の抽出 2.今年度指導審査員の業務について 3.今年度審査員中央研修の進め方につ いて 4.次年度事業計画について
令和5年2月1日 13:30～16:30 (Web)	本年度の問題点と来年 度の審査実施要領等の 検討 及び中央研修会の課題 と審査員等の体制の在 り方	1.2022年度の問題点について 2.2022年度の調査実施の実施要領につ いて 3.中央研修会の研修課題等について 4.指導審査員の在り方について

(ウ) 新審査員特別研修会

日時	目的	概要
令和4年6月8日 13:00～16:00 令和4年6月9日 10:00～16:00	本年度新たに就任した 審査員への業務の周知 徹底	1.審査体制の説明 2.JAS関係法規について 3.しょうゆの認証の技術的基準について 4.新規認証に係る審査及び確認調査等の 実施について

(エ) 審査員等中央研修会

日時	目的	概要
令和5年3月2日 10:00～16:00 (Web)	審査結果の総括及びそ れを踏まえた次年度の 審査及び指導方針(案) の説明並びに課題学習 のための研修	1.事例研究(製品検査不合格への対応) 2.調査結果のまとめ(地区) 3.全体のまとめ報告 4.2023年度の調査実施の実施要領につい て 5.その他報告(安全安心関係、表示関係)

(オ) 新任者実地研修会

新任者は既存の審査員の定期審査に同行した後、最初の定期審査に指導審査員等が同行し、現場での審査について指導を受けました。対象の新任者は以下4名。

會田春樹(群馬県担当)、河口宏(埼玉県担当)、里見秀太(石川県担当)、鈴木邦明(静岡県担当)

(カ) 外部研修等

外部の研修会に積極的に参加して、業務の研修及び意識向上に努めました。参加した外部の研修は別表5の通りです。

(キ) 審査員に対する内部監査の実施結果

審査員に対し指導審査員(指導審査員に対しては管理責任者)が内部監査を実施しました。この監査において不適合事項は検出されませんでした。

(2) 登録事業

ア 格付のための試料の検査を委託する第三者検査機関の登録

(ア) 登録

現在、登録している機関は、昨年度末から変更なく全37機関です。詳細は別表6のとおりです。

(イ) 外部監査

第三者検査機関の登録維持のため3箇所実施し、いずれも適合でした。

検査機関名	監査年月日	審査員名
三重県醤油味噌工業協同組合	令和4年5月10日	水村津与志
鹿児島県味噌醤油工業協同組合 鹿児島県検査所	令和4年12月8日	水村津与志
大分県味噌醤油工業協同組合	令和4年12月9日	水村津与志

(ウ) 格付の検査に係る技能試験

格付のための試料の検査を委託する第三者検査機関、及び格付のための検査を自ら行う工場（Aシステム工場）に対して、分析技能評価のため試験を実施しました。

イ 公認官能検査員認証試験の実施状況

前年度末 登録人員	6,042 名
本年度 合格者	115 名
本年度末 登録人員	6,157 名

ウ 基準品審査会の開催

審査員を集めて基準品審査会を開催することができなかつたため、各事業者の公認官能検査員有資格者が、前年度の自らの基準品と比較して審査をしました。そこで合格したものについて、さらに本部で官能評価による確認をする形で実施しました。実施期間は11月1日から11月30日まで。審査の結果は別表7の通りです。

(3) 標準色セット等の頒布

認証工場、検査機関及び他製造・流通事業者等がしょうゆの色度測定をするための、しょうゆ標準色セットの製造と頒布を実施しました。

令和5年3月末現在 1,401 セット

2. 調査・研究事業

(1) 研究発表会事業

第91回醤油研究発表会は発表会のみ実地開催しました。演題並びに発表者は別表8の通りです。

内容	開催日	会場	参加者人数
発表会	令和4年10月20日	東京農業大学 農大アカデミアセンター地下1階 横井講堂	60名
	令和4年10月31日～ 11月11日	オンライン配信	63名

(2) 品評会、技術賞等の運営支援

ア 第49回全国醤油品評会

(ア) 審査

(第一次審査)

北海道東北ブロック 令和4年7月5日(火) 宮城県味噌醤油工業協同組合にて開催
関東甲信越ブロック 令和4年6月27日(月) 醤油会館にて開催
東海北陸ブロック 令和4年6月28日(火) 愛知県味噌溜醤油工業協同組合にて開催
近畿ブロック 令和4年7月4日(月) 大醬株式会社にて開催
中国ブロック 令和4年7月14日(木) 岡山県醤油工業協同組合にて開催
四国ブロック 令和4年7月13日(水) 香川県醤油醸造協同組合にて開催
九州ブロック 令和4年7月15日(金) 福岡県醤油工業協同組合にて開催

(二次審査及び最終審査)

令和4年7月27日(水)～7月28日(木) 醤油会館にて開催

5名の審査員が出席することができなかったため、その審査員へはサンプルを送付して各自審査をし、8月3日までに審査結果を報告してもらいました。

(イ) 出品数 総出品数：270点

- a 種類別の内訳：こいくち170点、うすくち49点、たまり12点、さいしこみ34点、しろ5点
- b JAS格付品：180点（特級131点、上級49点、標準0点）
- c 非JAS品：90点

受賞の結果は、別表9の通りです。

イ 令和4年度日本醤油技術賞

日本醤油技術賞選考委員会を8月24日に開催し、推薦された6題の中から2題を選考し、技術賞授賞候補として答申しました。

題目	授賞候補者
えんどう豆を用いたしょうゆ風調味料の開発	仲原丈晴, 志賀一樹, 山崎達也, 梅澤洋貴 (キッコーマン株式会社研究開発本部, キッコーマン食品株式会社商品開発本部)
醤油乳酸菌における活性型トランスポゾンの発見とアルギニン非分解性株育種への利用	脇中琢良, 渡部潤 (ヤマサ醤油株式会社製造本部)

(3) 技術雑誌発行事業

ア 技術雑誌「醤油の研究と技術」の原稿依頼・編集・発行・Web版の刊行

令和4年度は季刊号（年4回発行）として、5月、8月、11月、2月に発行しました。

イ 主な内容（別表10に記載）

ウ 発行部数 770部（うちWeb版195部を含む）（昨年度772部）

エ 企画編集会議（雑誌編集委員会）

回	開催日	主な議題
239	2022年8月24日	1) 研究発表会の計画について 2) 技術賞選考委員会の今後の運営について 3) 投稿論文の取扱いについて 4) 次号（第48巻3号）以降の編集企画について
240	2023年2月8日	1) 研究発表会の計画について 2) 技術賞選考委員の委嘱について 3) 次号（第49巻1号）以降の編集計画について

(4) 市販醤油分析

市販醤油の分析を行いました。分析結果は別表11の通りで、令和4年3～4月および令和3年9～10月に製造された代表的銘柄9点の最高値、最低値及び年間の平均値です。

3. 検査事業

(1) 格付に関する検査

受託した格付に関する検査について、次の通り行いました。

検査点数 888件

(2) 品質管理等に係る分析

受託した品質管理等に係る分析について、次の通り行いました。

分析点数 893件（うち、栄養成分分析39件を含む）

4. 指導・育成事業

(1) 講習研修事業

認証工場に必要な資格取得のための講習会及び研修会を以下の通り開催しました。

ア 品質管理専門講習会

(ア) しょうゆの認証工場品質管理専門講習会について次のとおり実施しました。

a 新任者向け

第1回は対面開催で実施しました。

回	開催年月日	場所	修了者数
1	令和4年9月15日～令和4年9月16日	醤油会館（中央区）	6
2	令和5年1月26日～令和5年2月15日	Web	36

b 継続者向け

回	開催年月日	場所	修了者数
1	令和4年12月1日～令和4年12月20日	Web	81

(イ) 品質管理専門講習会課題、講師等は別表12の通りです。

イ 格付技能研修会

(ア) 格付検査担当者技能研修会について次のとおり実施しました。

a 新任者向け

回	開催年月日	場所	修了者数
1	令和4年7月22日	醤油会館（中央区）	14

b 継続者向け

回	開催年月日	場所	修了者数
1	令和4年8月25日～令和4年9月13日	Web	37

(イ) 格付検査担当者技能研修会課題、講師等は別表12の通りです。

5. 技術指導

(1) 技術指導員派遣の支援

福岡県組合と佐賀県組合からの要請により、技術指導員の派遣に対して支援しました。

(2) 技術顧問の委嘱

しょうゆ製造に係る技術指導に関する業務を委託するため、新たに技術顧問を9月1日付
けで以下の2名の方に委嘱しました。

田上秀男氏（元日本醤油技術センター 常務理事）

野田義治氏（福岡県醤油醸造協同組合 技術顧問）

(3) 技術顧問による技術指導

申請のあった3事業者に対して、技術顧問を派遣して技術指導を行いました。

6. 表示指導

(1) 表示指導員の委嘱

表示指導員を4月1日付けで別表13のとおり委嘱しました。

(2) しょうゆの表示等の指導

表示指導業務として各県表示指導員に対する、表示に関する研修会を以下のように行いました。

ア ブロック別表示指導員研修会

各ブロックごとに研修を行いました。各ブロックの詳細は別表14の通りです。

開催日	概要
令和4年6月21日 ～7月19日	1. 表示に関する最新情報等 1) 表示及びHACCP対応一覧表 2) 原料原産地表示について 3) 食品添加物の不使用表示に関するガイドラインについて 4) 新たな遺伝子組換え表示について 2. 表示指導について 新たな遺伝子組換え表示への対応

イ 新表示指導員研修会

以下の新人を対象に研修を行いました。

河口 宏（埼玉県）、森 明夫（中央）、村松俊輔（山梨県）、西谷内未乃里（石川県）、中田佳幸（兵庫県、龍野）、藤谷典志（香川県）、小林貴廣（大分県）

開催日時	概要
令和4年6月10日 10:00～16:00 醤油会館	1. 挨拶 2. 表示指導員の業務等について 3. 表示に関する法令等について 4. しょうゆ及びしょうゆ加工品の表示について 5. 新たな表示制度について 6. しょうゆJASについて

ウ 表示指導員中央研修会

開催日時	概要
令和5年3月3日 13:30～16:30 Web開催	1. 表示関係 1) 年間スケジュールなど 2) 遺伝子組換え表示について 3) 食品添加物の不使用表示について 4) くるみの義務表示化について

	5) グローバル化に対応した食品表示ルールの見直しについて 6) ハラール関係調査結果について 7) 表示指導體制について 2. 安全・安心関係 3. 規格関係
--	--

(3) 醤油業公正取引協議会及び日醬協の表示・技術部と連携し表示指導等の実施

令和4年12月6日に醤油会館において、「食品添加物の不使用表示に関するガイドライン」について、消費者庁の宇野課長補佐に説明および質疑応答をしてもらいました。

なお、新型コロナウイルスの影響で、今年度の表示検査会は中止となりました。

(4) 表示に関する研修会等への講師派遣

詳細は別表15の通りです。

7. 委員会等への参画

(1) 表示等委員会

議題がなかったため、今年度は開催されませんでした。

(2) 安全・安心（技術）委員会

標記委員会に加藤常務理事、松本理事、葛西参与が事務局として参画し、資料作成、議事進行を担当しました。

回	開催日	主要議題
第23回	令和5年1月11日	1) 農水省のクロロプロパノール類含有実態調査への協力について 2) 農水省のヒスタミン・チラミン含有実態調査への対応について 3) その他報告事項 3件

(3) 外部委員等

詳細は、別表16の通りです。

(4) その他

・農林水産省及び日本農林規格協会等における催しに協力し、しょうゆの展示、パンフレット等の配布を行いました。

・マスコミ、消費者団体等のしょうゆに対する照会に対し資料提供を行いました。

8. マネジメント・レビューの状況と結果

認証機関として、マネジメント・レビューを実施し、指示に対する是正処置報告をしました。

部門	マネジメント・レビュー 結果と指示	是正報告
認証業務	認証業務の適切な運用を行うために職務分担を見直し必要な引き継ぎを行うこと。	業務を徐々に引き継ぎを行うこととし、引き継ぎ者の増加した負担を軽減するため、併せて引き継ぎ者の業務の引き継ぎを行うこととした。

9. 独立行政法人農林水産消費安全技術センターによる調査の状況及び結果

ア 事業所調査

調査の概要：令和4年10月24日～令和4年10月25日に実施したところ、次の一件の指摘があり令和4年11月22日に改善報告が行われました。

事 項	具 体 的 内 容
不適合の状態	格付に関する業務を廃止した事業者をホームページで公表していない。
要求事項	認証事業者が格付に関する業務を廃止したときは、遅滞なく、JAS 法施行規則第48条第1項第4号ハ（1）から（5）の事項を事務所において公衆の閲覧に供するほか、インターネットの利用その他適切な方法によりこれらの事項の提供をすること。
基準文書	日本農林規格等に関する法律施行規則第48条第1項第4号ハ
客観的証拠	「認証業務規程しょうゆ」第53条第3項一般財団法人日本醤油技術センターのホームページに掲載されている「JAS 認証廃止事業者一覧（2022年10月03日現在）」（令和4年5月31日に廃止した有限会社八幡醤油店が含まれていない。）
原因究明、是正処置及び予防処置	<p>●即時処置</p> <p>一覧に漏れている事業者が他にないかどうか確認し、今回指摘のあった1件（令和4年5月31日に廃止した有限会社八幡醤油店）について「JAS 認証廃止事業者一覧（2022年10月24日現在）」に追記修正した。</p> <p>●原因究明</p> <p>当該認証廃止事業者は、提出日以後の廃止年月日を記載し届出が行われた。通常、廃止日と報告日に矛盾がある場合、万一、廃止以後にJAS品を製造することが無いよう、改めて廃止日以降に届出を行うよう指示してきた。しかし、当該事業者が、JAS製品を製造していなかったため誤ってJAS品の出荷の恐れが無かったことから廃止日以降に処理を行うこととし、書類を保留とし通常のものとして保管し、廃止日が過ぎたところで、農林水産省への報告を行った。</p> <p>通常とは別に保管、処理したため報告時点では、台帳処理が完了して</p>

	<p>いると思い込み台帳への記載を確認せず、結果、漏れてしまっていた。</p> <p>●是正措置 農林水産省への報告とそれに基づく公表の実施手順となるよう実施方法を明確に定め、処理に漏れの無いように改めることとした。</p> <p>●予防措置 廃止届の受理から農林水産省への報告とそれに基づく HP への公表の処理手順を業務便覧に明記し、徹底することとした。また、定期的に廃止した工場数と届出処理件数を照合し矛盾がないことも確認することとした。</p>
--	--

イ 製品検査施設調査

調査の概要：令和4年10月24日及び令和4年10月25日に実施したところ、不適合は認められませんでした。

ウ 立会調査

実施件数：3件

調査実施	審査員名	調査実施センター	不適合の有無
令和4年10月20日	小金丸和義	福岡センター	無
令和4年11月9日	河口宏	本部	無
令和4年12月20日	高橋清	仙台センター	無

エ 格付品検査

実施件数は、37件、不適合は認められませんでした。

オ 現地調査

0件

別表1 審査員名簿 (※指導審査員)

組合	審査員	組合	審査員	組合	審査員	組合	審査員
北海道	石川一雄	中央	(本部担当)	中央(大阪)	(滝本芳男)	愛媛	(本部担当)
青森	岩崎千穂	山梨	(本部担当)	兵庫	滝本芳男※	高知	(本部担当)
岩手	畑山 誠	長野	宮下峯雄	龍野	(滝本芳男)	福岡	中尾俊雄
宮城	高橋 清	新潟	日山成子	奈良	(滝本芳男)	佐賀	小金丸和義
秋田	尾張かおる	富山	玉島めぐみ	和歌山	(滝本芳男)	長崎	林田眞二郎
山形	清野義夫※	石川	里見秀太	鳥取	(山崎幸一)	熊本	松田茂樹※
福島	紅林孝幸	福井	宮越富子	島根	山崎幸一※	大分	(本部担当)
茨城	(本部担当)	岐阜	(富田茂夫)	岡山	山崎美和	宮崎	水谷政美
栃木	(田中正男)	静岡	鈴木邦明	広島	河村大造	鹿児島	日高 修
群馬	會田春樹	愛知	富田茂夫※	山口	柏木 享	本部	加藤裕久
埼玉	河口宏	三重	望月 豊	徳島	山本澄人	本部	松本秀樹
千葉	田中正男※	滋賀	(滝本芳男)	香川	末澤保彦	本部	水村津与志
千畿	(田中正男)	京都	(滝本芳男)	小豆島	末澤保彦	本部	関根悠太

別表2 令和3年度 新規認証

当該認証に係る者の氏名又は名称及び所在地		当該認証に係るほ場、工場若しくは事業所の名称及び所在地又は流通行程並びに当該流通行程における生産業者等の氏名若しくは名称及び住所		当該認証に係る認証番号	当該認証の年月日
申請者の氏名又は名称	所在地	事業所の名称	所在地		
天真株式会社	徳島県三好市池田町シンマチ1376番地	天真株式会社	徳島県三好市池田町シンマチ1376番地	NST-37-007	令和4年8月10日
持田醤油店 持田雅人	島根県出雲市平田町807	持田醤油店	島根県出雲市平田町807	NST-33-041	令和4年8月10日
徳星醤油醸造場 吉田伸昭	奈良県高市郡明日香村岡1168番地	徳星醤油醸造場	奈良県高市郡明日香村岡1168番地	NST-30-016	令和4年12月27日

別表3 令和3年度 廃止

当該廃止に係る者の氏名又は名称及び所在地		当該廃止に係るほ場、工場若しくは事業所の名称及び所在地又は流通行程並びに当該流通行程における生産業者等の氏名若しくは名称及び住所		当該廃止に係る認証番号	当該廃止の年月日
申請者の氏名又は名称	所在地	事業所の名称	所在地		

株式会社ヤマヒサ	香川県小豆郡小豆島町安田甲243	株式会社ヤマヒサ 本社工場	香川県小豆郡小豆島町安田甲243	NST-39-003	令和4年4月1日
有限会社八幡醤油店	鳥取県米子市皆生1-18-16	有限会社八幡醤油店	鳥取県米子市皆生1-18-16	NST-32-003	令和4年5月31日
天真株式会社	徳島県三好市池田町シマチ 1376番地	天真株式会社 本社工場	徳島県三好市池田町シマチ 1376番地	NST-37-002	令和4年8月9日
持田醤油店 持田恒夫	島根県出雲市平田町807	持田醤油店 持田恒夫	島根県出雲市平田町807	NST-33-012	令和4年8月9日
株式会社 星野本店	新潟県長岡市撰田屋2丁目10番30号	株式会社 星野本店	新潟県長岡市撰田屋2丁目10番30号	NST-17-005	令和4年8月1日
大門醤油醸造場 大門奈良子	奈良県桜井市大福646-1	大門醤油醸造場 大門奈良子	奈良県桜井市大福646-1	NST-30-007	令和4年8月20日
池田醤油有限公司	熊本県山鹿市山鹿1048	池田醤油有限公司	熊本県山鹿市山鹿1048	NST-45-011	令和4年7月31日
ヤマチン醤油株式会社	香川県小豆郡小豆島町馬木甲142番地	ヤマチン醤油株式会社	香川県小豆郡小豆島町馬木甲142番地	NST-39-008	令和4年9月30日
ヤマロク醤油株式会社	香川県小豆郡小豆島町安田甲1607	ヤマロク醤油株式会社	香川県小豆郡小豆島町安田甲1607	NST-39-010	令和4年9月30日
株式会社マツフジ	福岡県糸島市二丈松国117番地1	株式会社マツフジ	福岡県糸島市二丈松国117番地1	NST-42-051	令和4年7月27日
有限会社内池平蔵商店	福島県福島市瀬上町字本町46	有限会社内池平蔵商店	福島県福島市瀬上町字本町46	NST-07-006	令和4年7月29日
有限会社内田定三郎商店	島根県松江市米子町15番地	有限会社内田定三郎商店	島根県松江市米子町15番地	NST-33-007	令和4年10月31日
吉田宏 徳星醤油醸造場	奈良県高市郡明日香村岡1168番地	吉田宏 徳星醤油醸造場	奈良県高市郡明日香村岡1168番地	NST-30-003	令和4年12月26日
福来醤油株式会社	神奈川県川崎市中原区井田1丁目16番20号	福来醤油株式会社	神奈川県川崎市中原区井田1丁目16番20号	NST-14-001	令和5年1月31日
有限会社丸共味噌醤油醸造場	高知県須崎市中町1丁目2-21	有限会社丸共味噌醤油醸造場	高知県須崎市中町1丁目2-21	NST-41-006	令和4年12月1日
盛田株式会社	愛知県名古屋市中区栄1丁目7番34号	盛田株式会社 徳島工場	徳島県名西郡石井町浦庄字国実245-1	NST-37-006	令和5年2月20日

桑田醤油醸造 場 桑田東之夫	鳥取県倉吉市東 仲町2591	桑田醤油醸造 場 桑田東之夫	鳥取県倉吉市東 仲町2591	NST-32- 001	令和5年3月31 日
-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	----------------	---------------

別表4 ブロック別審査員会議

①春季審査員及び表示指導員合同研修会

ブロック	開催日	場所 又は開催方法	JAS 審査員 (※指導審査員)	本部出席者
北海道 東北	令和4年7月19日	ベルエア会館 会議室	石川一雄、岩崎千穂、畑山誠、高橋 清、尾張かおる、 ※清野義夫、紅林孝幸	松本、加藤
関東 甲信越	令和4年7月14日	醤油会館 2F 会議室	八尋 猛、會田春樹、河口宏、 ※田中正男、宮下峯雄、日山成子	全員
東海 北陸	令和4年7月8日	愛知県味噌溜醤油工業協同組合 2F 会議室	玉島めぐみ、里見秀太、宮越富子、 ※富田茂夫、望月 豊	松本、加藤
近畿	令和4年6月21日	TKP ガーデンシティ大阪リバーサイドホテル 5D	※滝本芳男	松本、加藤
中国	令和4年6月7日	ピュアリティまきび	※山崎幸一、山崎美和、河村大造、柏木 享	松本、加藤
四国	令和4年7月20日	高松センタービル 2階 205号室	山本澄人、末澤保彦	松本、加藤
九州	令和4年7月1日	ホテルメルパルク熊本	中尾俊雄、林田眞二郎、 ※松田茂樹、水谷政美、日高 修	松本、加藤

②秋季審査員研修会（一部ブロックは保留及び次年度繰り越しました。）

ブロック	開催日	場所 又は開催方法	JAS 審査員 (※指導審査員)	本部出席者
関東 甲信越	令和5年1月23日	醤油会館 2F 会議室	八尋 猛、會田春樹、河口宏、 、※田中正男、宮下峯雄、日山成子	全員
中国	令和4年12月8日	Web 会議	※山崎幸一、山崎美和、河村大造、柏木 享	
九州	令和4年12月16日	グランデはがくれ	中尾俊雄、林田眞二郎、 ※松田茂樹、水谷政美、日高 修	般若、松本、水村

別表5 外部研修等

名称	開催年月日	場所等	受講者
総研研究会 醸造食品部会 リモート工場見学	令和4年4月22日	Web	松本秀樹、関根悠太、利守宏太

総研研究会 醸造食品部会 総会・講演会	令和4年6月24日	Web	松本秀樹
JAS 法改正説明会	令和4年7月14日	Web	松本秀樹
JAS 協会 連絡協議会	令和4年8月25日	製粉会館	松本秀樹
JAS 法改正説明会	令和4年9月8日	Web	松本秀樹
木村研究会	令和4年10月6日 ～7日	サンルートホテルプラ ザ名古屋	松本秀樹、 関根悠太
総研研究会 醸造食品部会 リモート工場見学	令和4年11月4日	Web	松本秀樹、関根 悠太、利守宏太

別表6 第三者検査機関

第三者検査機関名	第三者検査機関名	第三者検査機関名
北海道味噌醤油工業協同組合	福井県醤油味噌工業協同組合	徳島県醤油醸造協同組合
青森県醸造食品工業協同組合	岐阜県味噌醤油工業協同組合	香川県醤油工業協同組合
岩手県味噌醤油工業協同組合	愛知県味噌溜醤油工業協同組合	小豆島醤油協同組合
宮城県味噌醤油工業協同組合	三重県醤油味噌工業協同組合検査所	愛媛県醤油味噌協同組合検査所
秋田県味噌醤油工業協同組合	滋賀県醤油工業協同組合検査所	福岡県醤油工業協同組合福岡県醤油検査所
山形県醤油味噌工業協同組合	中央醤油工業協同組合大阪地区検査所	佐賀県味噌醤油醸造協同組合
福島県味噌醤油工業協同組合	兵庫県醤油工業協同組合	長崎県醤油味噌協同組合検査所
群馬県醤油味噌工業協同組合	龍野醤油協同組合	熊本県みそ醤油組合検査所
埼玉醤油工業協同組合検査所	鳥取県味噌醤油工業協同組合	大分県味噌醤油工業協同組合
千葉県醤油工業協同組合	島根県醤油工業協同組合検査所	宮崎県味噌醤油工業協同組合検査所
新潟県味噌醤油工業協同組合	岡山県醤油工業協同組合	鹿児島県味噌醤油工業協同組合鹿児島検査所
富山県醤油味噌工業協同組合	広島県醤油協同組合連合会	
石川大野醤油協同組合	山口県味噌醤油協同組合	

別表7 基準品審査 審査結果

種類	種別	第三者機関 出品点数	Aシステム認証 工場出品点数	採点結果(点)	
				適	不適
こいくち	本醸造 特級	24	55	79	0
	混合 上級	1	0	1	0
うすくち	本醸造 特級	12	38	50	0
	混合 上級	11	6	17	0
たまり	本醸造 特級	4	12	16	0
さいしこみ	本醸造 特級	12	25	37	0
	混合醸造 特級	2	0	2	0
	混合 上級	1	2	3	0
しろ	本醸造 特級	2	4	6	0
	本醸造 上級	0	1	1	0
	混合 上級	1	0	1	0
合計		70	143	213	0

別表8 第91回醤油研究発表会（東京大会）演題並びに発表者

① 日本醤油技術賞 受賞講演

演題	発表者	所属
えんどう豆を用いたしょうゆ風調味料の開発	○仲原丈晴 ¹ 、志賀一樹 ² 、山崎達也 ³ 、梅澤洋貴 ⁴	¹ キッコーマン株式会社研究開発本部（現在、キッコーマンソイフーズ株式会社）、 ² キッコーマン株式会社研究開発本部（現在、キッコーマンバイオケミファ株式会社）、 ³ キッコーマン食品株式会社商品開発本部（現在、キッコーマン株式会社）、 ⁴ キッコーマン食品株式会社商品開発本部
醤油乳酸菌における活性型トランスポゾンの発見とアルギニン非分解性株育種への利用	○脇中琢良、渡部潤	ヤマサ醤油株式会社 製造本部

② 一般講演

演題	発表者	所属
(1) 醤油乳酸菌に感染するバクテリオファージのレセプターに関する研究	○脇中琢良 ¹ 、松谷峰之介 ² 、渡部潤 ³ 、茂木喜信 ¹ 、徳岡昌文 ⁴ 、大西章博 ⁴	¹ ヤマサ醤油株式会社、 ² 東京農業大学 生物資源ゲノム解析センター、 ³ 福島大学 農学群食農学類、 ⁴ 東京農業大学 応用生物科学部
(2) 生（なま）しょうゆの劣化に伴う香气成分の変化とその抑制の試み	○喜多洋一 ¹ 、高橋将一 ²	¹ フンドーキン醤油株式会社、 ² 農研機構・九州沖縄農業研究センター
(3) 福岡県産醤油の香气成分と官能評価点数との相関	白土遥菜 ¹ 、○三浦恭平 ² 、渡邊聡美 ³ 、脇山元気 ² 、植木達朗 ² 、小林弘司 ³ 、石川洋哉 ³	¹ 福岡女子大院人間環境科学、 ² 福岡県醤油醸造協同組合、 ³ 福岡女子大国際文理
(4) 味と香り成分の網羅的分析と機械学習によるしょうゆの官能的な特徴の予測	○大野直土、戸塚直哉、大友裕絵、今村美穂	キッコーマン株式会社 研究開発本部
(5) かつおだしの香り立ちに与える淡口醤油の効果	○竹内悠人、廣瀬真也、坂本洋子、眞岸範浩	ヒガシマル醤油株式会社 研究所

③ 技術講演

演題	発表者	所属
和食のおいしさと脳機能	坂井信之	東北大学文学研究科・電気通信研究所・ヨッタインフォマティクス研究センター 教授
創業者の想いから始まった大豆の可能性追求	佐本将彦	不二製油グループ本社（株）未来創造研究所

④ 特別講演

演題	発表者	所属
麴発酵食品中に含まれるペプチド、アミノ酸代謝産物の機能	佐藤健司	京都大学 農学研究科 応用生物科学専攻 海洋生物生産学講座 教授

別表9 全国醤油品評会受賞者一覧

① 「農林水産大臣賞」受賞5点

受賞者名	出品財名（銘柄）	都道府県名	部門名（品目）
有限会社今野醸造	吟醸	宮城県	こいくちしょうゆ
株式会社佐藤麴味噌醤油店	ヤマシゲ本醸造	宮城県	こいくちしょうゆ
福島県醤油醸造協同組合	香味しょうゆ	福島県	こいくちしょうゆ
川中醤油株式会社	濃口 宝	広島県	こいくちしょうゆ
合資会社山形屋商店	ヤマブンうすくち醤油	福島県	うすくちしょうゆ

② 「農林水産省大臣官房長賞」受賞10点

受賞者名	出品財名（銘柄）	都道府県名	部門名（品目）
道南食糧工業株式会社	北海道しょうゆ	北海道	こいくちしょうゆ
盛田株式会社日光工場	マルシチ 本醸造特級しょうゆ	栃木県	こいくちしょうゆ
酒富醸造株式会社	キッコーサカトミ醤油	長野県	こいくちしょうゆ
株式会社越のむらさき	本醸造しょうゆ	新潟県	こいくちしょうゆ
新潟県醤油協業組合	良寛ひしお	新潟県	こいくちしょうゆ
佐伯醤油有限会社	まるさ 特選 本醸造	広島県	こいくちしょうゆ
マルヨシ醤油株式会社	まるよし	福岡県	こいくちしょうゆ
樋口食品工業株式会社	濃口本醸造	福岡県	こいくちしょうゆ
山崎醸造株式会社	かんろ	新潟県	うすくちしょうゆ
ヤマシン醸造株式会社	さしみたまり	愛知県	たまりしょうゆ

③ 「優秀賞」受賞35点

受賞者名	出品財名（銘柄）	都道府県名	部門名（品目）
川敬醸造株式会社	本醸造 マイルド特級	宮城県	こいくちしょうゆ
鎌田醤油株式会社	キッコートキワ・常磐印	宮城県	こいくちしょうゆ
株式会社木村醤油店	味の司	山形県	こいくちしょうゆ
株式会社丸十大屋	べつじょう	山形県	こいくちしょうゆ
株式会社紅谷醸造場	上印	山形県	こいくちしょうゆ
内池醸造株式会社	キッコーツル 特選醤油	福島県	こいくちしょうゆ
上ホ醤油株式会社	ジョーホ	茨城県	こいくちしょうゆ
有限会社黒澤醤油店	富士仁（フジニ）	茨城県	こいくちしょうゆ
マルキ醤油株式会社	本醸造醤油	長野県	こいくちしょうゆ
泉万醸造株式会社	馥郁醤油	愛知県	こいくちしょうゆ
杉野味噌醤油株式会社	キッコースギ カンロ醤油	富山県	こいくちしょうゆ

ヤマモリ株式会社桑名工場	本醸造 ギャバしょうゆ	三重県	こいくちしょうゆ
野村醤油店	マルヘイ こいくちしょうゆ	滋賀県	こいくちしょうゆ
盛田株式会社小豆島工場	マルキンこいくち	五社	こいくちしょうゆ
株式会社ヤマヒサ	花醬(はなびしお)	小豆島	こいくちしょうゆ
橋本醤油株式会社	茶白山の穀醬	熊本県	こいくちしょうゆ
ホシサン株式会社	本醸造しょうゆ あまくち	熊本県	こいくちしょうゆ
合資会社釜田醸造所	蔵一番	熊本県	こいくちしょうゆ
ホシサン株式会社	あまくち	熊本県	こいくちしょうゆ
ヒゲタ醤油株式会社	特選うすくちしょうゆ	五社	うすくちしょうゆ
末廣醤油株式会社	龍野 本造り	龍野	うすくちしょうゆ
金大醤油株式会社	搾りたて「うすくち醤油」	小豆島	うすくちしょうゆ
ホシサン株式会社	本醸造しょうゆ うすくち	熊本県	うすくちしょうゆ
合資会社吉本味噌醤油醸造元	うすくちしょうゆ水前寺醤油	熊本県	うすくちしょうゆ
ヤマエ食品工業株式会社	うまくち つぎ	宮崎県	うすくちしょうゆ
中利株式会社	生(なま) たまりしょうゆ	愛知県	たまりしょうゆ
ヤマイ醤油株式会社	超特撰たまり	龍野	たまりしょうゆ
内池醸造株式会社	キッコーツル二段熟成醤油 極	福島県	さいしこみしょうゆ
天野醤油株式会社	甘露しょうゆ	静岡県	さいしこみしょうゆ
中国醤油醸造協同組合	本醸造 甘露醤油	広島県	さいしこみしょうゆ
盛田株式会社小豆島工場	マルキンさしみ	五社	さいしこみしょうゆ
福岡県醤油醸造協同組合	ふくおか	福岡県	さいしこみしょうゆ
フジヨシ醤油株式会社	天	大分県	さいしこみしょうゆ
キノエネ醤油株式会社	白しょうゆ	千醬	しろしょうゆ
ヤマシン醸造株式会社	ヤマシン 白醤油	愛知県	しろしょうゆ

別表10 雑誌「醤油の研究と技術」の主な内容

巻号	項目	表題	著者
第48巻 第2号	総説	ゲノム編集法の農作物への応用の現状とトマト成熟研究への適用	伊藤康博
	研究報文	麹菌胞子の発芽促進に関する研究 一トレハロース含量の増加と発芽速度の回復一	廣瀬真也, 眞岸範浩
	技術解説	しょうゆ・みそのポーションサイズと血圧との関係	岡田恵美子
	技術情報	第48回全国醤油品評会の審査と出品傾向	水村津与志
		第48回全国醤油品評会出品しょうゆの香気・呈味成分の傾向	眞榮田麻友美, 前橋健二
醤油品評会 受賞者紹介	第48回農林水産省大臣官房長賞5社; 林合名会社, 下津醤油株式会社, マルヨシ醤油株式会社, 上ホ醤油株式会社, ヤマボシ醤油合名会社		

	醤油業界 トピックス	食品添加物の不使用表示に関するガイドライン公表される	加藤裕久
		木桶職人復活プロジェクト 2022年 木桶による発酵文化サミット&フェスティバル in 小豆島	大関恒雄
	市場情報	世帯構成の変化が食品支出に与える影響について	般若攝也
	工場紹介	佐賀県醤油協業組合	松田朋喜
	旅する醤油 コンプラ瓶	東京・日本橋とどぜう鍋	櫻井馨梨
第48巻 第3号	総説	醤油研究からの新展開	舘博
	技術解説	醤油醸造における生揚生産協業化の歴史と産業的意義	紅林孝幸
	技術情報	特産品の輸出戦略 - 千葉県産醤油をインドネシアへ -	薄井亮太, 加藤夢叶, 長倉桃香, 稗田真心
		みその日本農林規格	加藤妙子
	醤油品評会 受賞者紹介	第48回特別表彰3社: 内池醸造株式会社, 合資会社釜田醸造所, 合資会社緑屋本店	
	醤油業界 トピックス	第49回全国醤油品評会速報	水村津与志
	工場紹介	岐阜県しょうゆ協業組合	青木利充
	旅する醤油 コンプラ瓶	長崎・出島と卓袱料理	吉田功一
第48巻 第4号	随想	一元的解釈の呪縛/ある論争から	五明紀春
	技術解説	醤油乳酸菌 <i>Tetragenococcus halophilus</i> の細胞塊形成機構の解析	白川大地, 脇中琢良, 渡部潤
	技術情報	醤油の密閉容器の変遷	河戸哲弥, 龍崎博, 脇中琢良
		第49回全国醤油品評会の審査と出品傾向	水村津与志
	醤油品評会 受賞者紹介	第49回農林水産大臣賞5社: 有限会社今野醸造, 株式会社佐藤麴味噌醤油店, 福島県醤油醸造協同組合, 川中醤油株式会社, 合資会社山形屋商店	
	醤油業界 トピックス	令和4年度日本醸造協会「醸造技能者表彰」受賞	森明夫
		第90回醤油研究発表会 3年ぶりに実開催される	加藤裕久
	工場紹介	長工醤油味噌協同組合	加藤秀男
	旅する醤油 コンプラ瓶	山形・山形城と芋煮会	清野義夫
	第90回醤油研究発表会講演要旨集		
第49巻 第1号	新年にあたり	価値創出と国内外への発信で飛躍の年に	春見隆文
	研究報文	アルゴンガスをキャリアガスとした改良デュマ法によるしょうゆの全窒素分析	関根悠太

	日本醤油技術 賞受賞論文	えんどう豆を用いたしょうゆ風調味料の開発	仲原文晴，志賀 一樹，山崎達 也，梅澤洋貴
		醤油乳酸菌における活性型トランスポゾンの発見とアルギニン非分解性株育種への利用	脇中琢良，渡部 潤
	技術情報	しょうゆのヒスタミン低減の促進に関する考察	田上秀男
	醤油品評会 受賞者紹介	第49回農林水産省大臣官房長賞5社； マルヨシ醤油株式会社，盛田株式会社日光工場，新潟県醤油協業組合，山崎醸造株式会社，株式会社越のむらさき	
	工場紹介	大分醤油協業組合	田部一郎
	旅する醤油 コンプラ瓶	広島・原爆ドーム，厳島神社とかきの土手鍋，あなご飯	阿須賀謙

別表11 令和4年市販醤油分析値（最高値、最低値、平均値）

品種	銘柄	表示				ポ ー メ	食 塩	全 窒 素	還 元 糖	ア ル コ ー ル	滴定酸度		pH	無 塩 可 溶 性 固 形 分	色 度
		等級	製造方式	保存料							I	II			
こいくち	A	特級	本醸造	-	最高値	20.95	16.51	1.61	2.85	2.36	11.68	10.06	4.77	18.93	11
					最低値	20.64	16.48	1.60	2.40	2.26	11.60	9.64	4.72	18.75	11
					平均値	20.80	16.50	1.61	2.63	2.31	11.64	9.85	4.75	18.84	11
	B	特級	本醸造	-	最高値	20.80	16.79	1.56	2.52	2.24	11.72	9.84	4.73	17.89	15
					最低値	20.61	16.74	1.55	2.23	2.19	11.45	9.22	4.72	17.70	11
					平均値	20.71	16.77	1.56	2.38	2.22	11.59	9.53	4.73	17.80	13
	C	特級	本醸造	-	最高値	21.07	16.52	1.58	3.47	2.34	12.03	10.22	4.72	18.88	11
					最低値	21.04	16.48	1.58	3.21	2.32	11.77	9.72	4.70	18.71	11
					平均値	21.06	16.50	1.58	3.34	2.33	11.90	9.97	4.71	18.80	11
	D	特級	本醸造	-	最高値	20.83	16.60	1.67	3.33	2.67	12.02	10.49	4.76	18.36	9
					最低値	20.58	16.54	1.60	2.49	2.54	11.76	9.93	4.72	17.89	7
					平均値	20.71	16.57	1.63	2.91	2.61	11.89	10.21	4.74	18.13	8
	E	上級	本醸造	-	最高値	20.77	17.28	1.40	3.41	2.56	10.26	8.92	4.76	17.13	15
					最低値	20.70	17.24	1.39	3.09	2.51	9.93	8.48	4.69	17.07	11
					平均値	20.74	17.26	1.39	3.25	2.54	10.10	8.70	4.73	17.10	13
うすくち	F	特級	本醸造	-	最高値	20.94	18.94	1.22	1.98	2.99	8.54	7.79	4.85	14.90	33
					最低値	20.68	18.84	1.19	1.66	2.79	7.80	6.71	4.72	14.18	33
					平均値	20.81	18.89	1.20	1.82	2.89	8.17	7.25	4.78	14.54	33
	G	特級	本醸造	-	最高値	21.33	18.76	1.18	4.70	3.09	8.41	7.45	4.79	16.03	37
					最低値	21.30	18.50	1.18	4.52	3.02	7.99	7.41	4.78	15.77	33
					平均値	21.32	18.63	1.18	4.61	3.06	8.20	7.43	4.79	15.90	35
	H	特級	本醸造	-	最高値	21.44	18.94	1.21	4.06	2.43	7.97	7.82	4.84	15.25	41
					最低値	21.37	18.78	1.20	4.04	2.38	7.90	7.31	4.83	15.22	37
					平均値	21.41	18.86	1.21	4.05	2.41	7.94	7.57	4.83	15.24	39
	I	特級	本醸造	-	最高値	21.65	18.92	1.21	4.57	2.28	9.25	7.44	4.84	15.46	37
					最低値	21.54	18.84	1.20	4.54	2.24	7.47	7.41	4.64	15.32	37
					平均値	21.60	18.88	1.20	4.56	2.26	8.36	7.42	4.74	15.39	37

別表12 品質管理責任者等専門講習会課題、講師等

ア 品質管理専門講習会

a 新任者向け（第1回）

第1日：令和4年9月15日

時 間	番号	講 習 課 題	講 師・担 当
09：30～10：00		受 付	
10：00～10：05		開講あいさつ	
10：05～10：55		しょうゆに関する関連法規（1）	理事 松本 秀樹
10：55～11：05	①	休 憩	
11：05～12：00		しょうゆに関する関連法規（2）	理事 松本 秀樹
12：00～13：00		昼 食	
13：00～13：50		認証の技術的基準の解説（1） －品質管理責任者の職務－	次長 水村 津与志
13：50～14：00	②	休 憩	
14：00～14：50		認証の技術的基準の解説（2） －品質管理責任者の職務－	次長 水村 津与志
14：50～15：00		休 憩	
15：00～15：40	③	新しいJASについて	（社）日本農林規格協会 専務理事 島崎 真人
15：40～16：00		質疑応答	
16：00～16：30		官能検査員試験(事前申込者のみ)	製品検査員

第2日：令和4年9月16日

時 間	番号	講 習 課 題	講 師・担 当
09：30～10：00		受 付	
10：00～10：50	④	認証の技術的基準の解説 －格付責任者(担当者)の職務－	次長 水村 津与志
10：50～11：00		休 憩	
11：00～12：00		しょうゆと加工品の表示（1）	理事 加藤 裕久
12：00～13：00	⑤	昼 食	
13：00～13：30		しょうゆと加工品の表示（2）	理事 加藤 裕久
13：30～13：40		休 憩	
13：40～15：20 (10分間休憩含む)	⑥	実務に役立つ！ しょうゆの品質管理分析	製品検査員 関根 悠太
15：10～15：20		休 憩	
15：20～15：50		テスト 質疑応答	
15：50～16：00		閉講あいさつ	

a 新任者向け（第2回）

令和5年1月26日～2月15日

動画番号	時間(分)	研修課題	講師・担当
		理事長挨拶とガイダンス	
①	100	しょうゆに関する関連法規	理事 松本秀樹
②	100	認証の技術的基準の解説 —品質管理責任者の職務—	次長 水村津与志
③	50	認証の技術的基準の解説 —格付責任者（担当者）の職務—	次長 水村津与志
④	40	新しいJAS制度について	島崎真人
⑤	90	しょうゆと加工品の表示	常務理事 加藤裕久
⑥	90	実務に役立つ！しょうゆの品質管理分析	製品検査員 関根悠太

b 継続者向け

令和4年12月1日～12月20日

動画番号	研修課題	講師・担当
	理事長挨拶とガイダンス	
①	最新業界事情	理事 松本秀樹
②	品質管理の適切な実施	理事 松本秀樹
③	格付の適切な実施	理事 松本秀樹
④	今日からできる！しょうゆの品質管理分析	製品検査員 関根悠太

イ 格付技能研修会

a 新任者向け

令和4年7月22日

番号	時間	研修課題	講師・担当
	09:30～10:00	受付	
①	10:00～11:00	しょうゆのJAS格付に関する関係法規	理事 松本 秀樹
②	11:00～11:10	休憩	
③	11:10～12:00	格付責任者と格付検査担当者の業務	次長 水村 津与志
④	12:00～13:00	昼食	
⑤	13:00～14:30	JAS規格項目の測定方法 (精度管理を含む)	製品検査員 関根 悠太
⑥	14:30～14:40	休憩	
⑦	14:40～15:10	格付に関する官能検査等について	次長 水村 津与志
⑧	15:10～15:30	質疑応答、アンケート記入	理事 松本 秀樹
⑨	15:30～16:00	官能検査員試験（事前申込者のみ）	次長 水村 津与志 製品検査員 関根 悠太 ” 今田 紀子

b 継続者向け

令和4年8月25日～9月13日

動画番号	研修課題	講師・担当
	理事長挨拶とガイダンス	
①	業界の現状と課題	専務理事 般若撰也
②	JAS法、認証基準、規格の変更点	理事 松本秀樹
③	格付の測定方法のポイント	製品検査員 関根悠太

別表13 表示指導員名簿

組合	表示指導員	組合	表示指導員	組合	表示指導員	組合	表示指導員
北海道	石川一雄	中央	森 明夫	京都	松本 哲	香川	藤谷典志
青森	岩崎千穂	山梨	村松俊輔	中央	大橋ユキ	小豆島	中村郁恵
岩手	吉田隆一	長野	戸井田仁一	兵庫	中田佳幸	愛媛	村岡良美
宮城	佐々木智美	新潟	日山成子	龍野	中田佳幸	高知	甲藤幹代
秋田	田村岳大	富山	玉島めぐみ	奈良	鈴木智博	福岡	中尾俊雄
山形	榎みづき	石川	西谷内未乃里	和歌山	加納 誠	佐賀	下村里美
福島	鈴木由里子	福井	宮越富子	鳥取	岡 澈哉	長崎	吉田功一
茨城	八尋 猛	岐阜	山川晃生	島根	萬波由紀	熊本	國本千恵
栃木	高野浩枝	静岡	鈴木邦明	岡山	山崎美和	大分	小林貴廣
群馬	會田春樹	静岡	西條 喬	広島	二川裕一	宮崎	馬場雅幸
埼玉	河口 宏	愛知	木全由美	山口	本田由美子	鹿児島	狩行 勲
千葉	田中秀夫	三重	望月 豊	徳島	山本澄人		
千醬	田中秀夫	滋賀	深尾浩平	香川	榑原 優		

別表14 ブロック別表示指導員研修会

ブロック名	開催日	場所 又は開催方法	表示指導員	本部出席者
北海道 東北	令和4年7月19日	ベルエア会館 会議室	石川一雄、岩崎千穂、吉田隆一、佐々木智美、田村岳大、榎みづき、鈴木由里子	加藤、松本
関東 甲信越	令和4年7月14日	醤油会館 2F 会議室	八尋 猛、高野浩枝、會田春樹、河口宏、田中秀夫、森明夫、村松俊輔、日山成子、戸井田仁一	全員
東海 北陸	令和4年7月7日	愛知県味噌溜醤油工業協同組合 2F 会議室	西谷内未乃里、宮越富子、山川晃生、木全由美、望月 豊、鈴木邦明	加藤、松本
近畿	令和4年6月21日	TKP ガーデンシティ大阪リバーサイドホテル5D	深尾浩平、中田佳幸、中田佳幸、鈴木智博、加納 誠、松本 哲、大橋ユキ	加藤、松本
中国	令和4年6月6日	ピュアリティまきび	岡 澈哉、萬波由紀、山崎美和、二川裕一、本田由美子	加藤、松本

四国	令和4年7月20日	高松センタービル 2階 205号室	山本澄人、榊原 優、中村郁恵、村岡良美、甲藤幹代	加藤、松本
九州	令和4年6月30日	ホテルメルパルク熊本	中尾俊雄、下村里美、吉田功一、國本千恵、小林貴廣、馬場雅幸、狩行 勲	加藤、松本

別表15 講師派遣

開催日	内容	講師
令和4年11月31日	令和4年度千葉県醤油鑑評会の審査員及び講師派遣	加藤裕久

別表16 外部委員等

① 外部委員

6月	日本醸造協会醸造技能者選考委員会	館 博
6月	日本醸造協会技術賞選考委員会	館 博
毎月	日本醸造協会編集会議	館 博
4月、8月、3月	総研研究会幹事会	館 博 松本秀樹
令和4年5月25日、令和5年1月13日、3月23日	食品産業センター食品表示対策委員会	加藤裕久

② 品評会及び鑑評会審査員

令和4年10月6日	令和4年度山形県醤油味噌品評会特別審査員	水村津与志
令和5年2月8日	令和4年度長野県醤油品評会特別審査員	水村津与志

③ JAS

不定期	JAS 協連絡協議会	松本秀樹
5月、3月	JAS 協理事会	般若摂也、春見隆文

④ その他

名 称	開催年月日	場所等	出席者
令和4年度科学技術基礎調査等委託事業に係る技術審査	令和4年7月6日	Web 会議	加藤裕久

附 属 明 細 書

2022 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2023 年 5 月

一般財団法人日本醤油技術センター

IV 計 算 書 類

貸 借 対 照 表

2023年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	80,498	40,816	39,682
普通預金	5,661,858	14,068,523	△ 8,406,665
郵便振替口座	13,355,408	2,646,957	10,708,451
定期預金	5,386,000	3,626,000	1,760,000
棚卸資産	3,041,781	2,745,864	295,917
仮払金	183,750	160,055	23,695
未収金	670,413	3,798,976	△ 3,128,563
前払金	421,200	300,960	120,240
流動資産合計	28,800,908	27,388,151	1,412,757
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	18,000,000	18,000,000	0
基本財産合計	18,000,000	18,000,000	0
(2) 特定資産			
特別積立引当資産	15,000,000	15,000,000	0
減価償却引当資産	6,614,000	6,504,000	110,000
退職給付引当資産	22,910,000	21,330,000	1,580,000
特定資産合計	44,524,000	42,834,000	1,690,000
(3) その他固定資産			
什器備品	695,020	246,422	448,598
その他固定資産合計	695,020	246,422	448,598
固定資産合計	63,219,020	61,080,422	2,138,598
資産合計	92,019,928	88,468,573	3,551,355
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,243,986	1,591,478	△ 347,492
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	465,600	341,600	124,000
預り金	68,400	81,000	△ 12,600
前受金	1,267,700	19,700	1,248,000
流動負債合計	3,115,686	2,103,778	1,011,908
2. 固定負債			
退職給付引当金	22,910,000	21,330,000	1,580,000
固定負債合計	22,910,000	21,330,000	1,580,000
負債合計	26,025,686	23,433,778	2,591,908
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(18,000,000)	(18,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(21,614,000)	(21,504,000)	(110,000)
正味財産合計	65,994,242	65,034,795	959,447
負債及び正味財産合計	92,019,928	88,468,573	3,551,355

正味財産増減計算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	889	1,130	△ 241
基本財産受取利息	889	1,130	△ 241
特定資産運用益	342	340	2
特定資産受取利息	342	340	2
事業収益	52,595,352	53,335,371	△ 740,019
JAS検査手数料収益	6,244,172	5,003,671	1,240,501
JAS認証収益	23,790,000	26,148,250	△ 2,358,250
技術情報雑誌収益	4,866,600	4,767,025	99,575
研究発表会収益	423,000	366,000	57,000
研修講習収益	2,736,500	2,493,500	243,000
登録収益	533,000	489,000	44,000
標準色等頒布収益	14,002,080	14,067,925	△ 65,845
運営負担金	38,000,000	38,000,000	0
運営負担金	38,000,000	38,000,000	0
雑収益	57,707	55,350	2,357
受取利息	371	347	24
JAS証紙収益	55,279	47,912	7,367
雑収益	2,057	7,091	△ 5,034
経常収益計	90,654,290	91,392,191	△ 737,901
(2) 経常費用			
事業費	89,624,843	87,627,863	1,996,980
役員報酬	12,840,000	12,840,000	0
給与手当	13,789,100	14,420,985	△ 631,885
臨時雇賃金	292,400	294,500	△ 2,100
退職給付費用	1,580,000	1,870,000	△ 290,000
福利厚生費	3,644,232	3,844,783	△ 200,551
会議費	527,003	209,335	317,668
旅費交通費	3,924,066	2,175,696	1,748,370
通信運搬費	1,184,607	1,439,572	△ 254,965
消耗什器備品費	190,313	72,107	118,206
消耗品費	6,414,821	3,529,622	2,885,199
図書費	246,509	278,527	△ 32,018
修繕費	1,338,080	1,415,865	△ 77,785
印刷製本費	4,812,148	5,327,520	△ 515,372
借室料	6,771,600	6,771,600	0
賃借料	6,643,687	5,777,588	866,099
保険料	46,010	48,880	△ 2,870
諸謝金	1,041,742	860,835	180,907
租税公課	1,048,236	849,620	198,616
支払負担金	1,177,700	1,074,100	103,600
支払助成金	200,000	200,000	0
支払手数料	1,499,468	1,089,696	409,772
委託費	20,252,750	22,669,300	△ 2,416,550
雑費	50,170	149,183	△ 99,013
減価償却費	110,201	418,549	△ 308,348
経常費用計	89,624,843	87,627,863	1,996,980
当期経常増減額	1,029,447	3,764,328	△ 2,734,881

2. 経常外増減の部			
（1）経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
（2）経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	1,029,447	3,764,328	△ 2,734,881
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	959,447	3,694,328	△ 2,734,881
一般正味財産期首残高	65,034,795	61,340,467	3,694,328
一般正味財産期末残高	65,994,242	65,034,795	959,447
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	65,994,242	65,034,795	959,447

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」（平成20年4月11日令和2年5月15日最終改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(1) 固定資産の減価償却の方法

什器備品……………定率法による減価償却を実施している。

ソフトウェア……………定額法による減価償却を実施している。

(2) 引当金の計上基準

退職給付引当金………期末退職給付の要支給額に相当する金額を計上している。

(3) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース

取引については通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式としている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	18,000,000	0	0	18,000,000
小 計	18,000,000	0	0	18,000,000
特定資産				
特別積立引当資産	15,000,000	0	0	15,000,000
減価償却引当資産	6,504,000	110,000	0	6,614,000
退職給付引当資産	21,330,000	1,580,000	0	22,910,000
小 計	42,834,000	1,690,000	0	44,524,000
合 計	60,834,000	1,690,000	0	62,524,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
定期預金	18,000,000	0	(18,000,000)	0
小 計	18,000,000	0	(18,000,000)	0
特定資産				
特別積立引当資産	15,000,000	0	(15,000,000)	0
減価償却引当資産	6,614,000	0	(6,614,000)	0
退職給付引当資産	22,910,000	0	0	(22,910,000)
小 計	44,524,000	0	(21,614,000)	(22,910,000)
合 計	62,524,000	0	(39,614,000)	(22,910,000)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	30,291,114	29,596,094	695,020
ソフトウェア	324,000	324,000	0
	30,615,114	29,920,094	695,020

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2に記載している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	21,330,000	1,580,000	0	0	22,910,000

正味財産増減計算書（予算実績）

2022年4月1日から2023年3月31日まで

（単位：円）

科目	予算額	決算額	差額
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,000	889	△ 1,111
基本財産受取利息	2,000	889	△ 1,111
特定資産運用益	1,000	342	△ 658
特定資産受取利息	1,000	342	△ 658
事業収益	53,974,000	52,595,352	△ 1,378,648
JAS検査手数料収益	4,960,000	6,244,172	1,284,172
JAS認証収益	24,477,000	23,790,000	△ 687,000
技術情報雑誌収益	5,312,000	4,866,600	△ 445,400
研究発表会収益	1,240,000	423,000	△ 817,000
研修講習収益	3,075,000	2,736,500	△ 338,500
登録収益	410,000	533,000	123,000
標準色等頒布収益	14,500,000	14,002,080	△ 497,920
運営負担金	38,000,000	38,000,000	0
運営負担金	38,000,000	38,000,000	0
雑収益	74,000	57,707	△ 16,293
受取利息	1,000	371	△ 629
JAS証紙収益	70,000	55,279	△ 14,721
雑収益	3,000	2,057	△ 943
経常収益計	92,051,000	90,654,290	△ 1,396,710
(2) 経常費用			
事業費	91,981,000	89,624,843	△ 2,356,157
役員報酬	12,840,000	12,840,000	0
給与手当	12,830,000	13,789,100	959,100
臨時雇賃金	220,000	292,400	72,400
退職給付費用	1,580,000	1,580,000	0
福利厚生費	3,706,000	3,644,232	△ 61,768
会議費	1,395,000	527,003	△ 867,997
旅費交通費	4,443,000	3,924,066	△ 518,934
通信運搬費	1,300,000	1,184,607	△ 115,393
消耗什器備品費	245,000	190,313	△ 54,687
消耗品費	7,597,000	6,414,821	△ 1,182,179
図書費	210,000	246,509	36,509
修繕費	1,200,000	1,338,080	138,080
印刷製本費	4,882,000	4,812,148	△ 69,852
借室料	6,770,000	6,771,600	1,600
賃借料	6,578,000	6,643,687	65,687
保険料	40,000	46,010	6,010
諸謝金	997,000	1,041,742	44,742
租税公課	1,090,000	1,048,236	△ 41,764
支払負担金	1,545,000	1,177,700	△ 367,300
支払助成金	200,000	200,000	0
支払手数料	1,274,000	1,499,468	225,468
委託費	20,992,000	20,252,750	△ 739,250
雑費	47,000	50,170	3,170
減価償却費	0	110,201	110,201
経常費用計	91,981,000	89,624,843	△ 2,356,157
当期経常増減額	70,000	1,029,447	959,447

2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	70,000	1,029,447	959,447
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	0	959,447	959,447
一般正味財産期首残高	65,034,795	65,034,795	0
一般正味財産期末残高	65,034,795	65,994,242	959,447
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	65,034,795	65,994,242	959,447

V 監 査 報 告 書

一般財団法人日本醤油技術センター
代表理事 春 見 隆 文 様

2023年5月9日

監事 檜 垣 周 作 ㊟

監事 河 盛 幹 雄 ㊟

私たち監事は、2022年4月1日から2023年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からの職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上

VI 役員等名簿

一般財団法人 日本醤油技術センター

2023年3月31日現在

役職名	常勤・非常勤の別	氏名	団体等役職名
理事長	非常勤	春 見 隆 文	—
専務理事	常勤	般 若 攝 也	日本醤油協会 専務理事
常務理事	常勤	加 藤 裕 久	日本醤油協会 参与
理事	常勤	松 本 秀 樹	—
理事	非常勤	吉 田 企 世 子	女子栄養大学名誉教授
理事	非常勤	館 博	東京農業大学名誉教授
理事	非常勤	柳 原 尚 之	近茶流宗家 柳原料理教室主宰
理事	非常勤	高 津 伊 兵 衛	株式会社になべん 代表取締役社長
理事	非常勤	堀 切 功 章	キッコーマン株式会社 代表取締役会長CEO
理事	非常勤	濱 口 道 雄	ヤマサ醤油株式会社 代表取締役会長
監事	非常勤	檜 垣 周 作	株式会社JFLAホールディングス 代表取締役社長
監事	非常勤	河 盛 幹 雄	大醬株式会社 代表取締役社長
評議員	非常勤	前 橋 健 二	東京農業大学教授
評議員	非常勤	大 木 美 智 子	一般財団法人消費科学センター 代表理事
評議員	非常勤	中 尾 治 廣	元農林水産省東京農林水産消費技術センター所長
評議員	非常勤	島 崎 眞 人	一般社団法人 日本農林規格協会 専務理事
評議員	非常勤	朝 田 仁	ヤマキ株式会社 取締役上席執行役員
評議員	非常勤	濱 田 孝 司	ヒゲタ醤油株式会社 代表取締役社長
評議員	非常勤	浅 井 昌 信	ヒガシマル醤油株式会社 代表取締役会長
評議員	非常勤	三 林 憲 忠	ヤマモリ株式会社 代表取締役会長
評議員	非常勤	正 田 隆	正田醤油株式会社 代表取締役社長
評議員	非常勤	宮 島 清 一	宮島醤油株式会社 代表取締役会長
評議員	非常勤	大 関 恒 雄	醤油PR協議会 理事

